

命の尊さ 紙灯籠に込め

長田区 グループは、15、24歳の35人が活動する「1・17希望の架け橋」。遺族への聞き取りや、学校での語り部活動などに取り組んでいる。つどいのボランティアも担い、紙灯籠作りは昨年に続き2回目となる。

阪神・淡路大震災から26年以上あり、紙灯籠は2千本以上ある。つどいまでに準備し、竹灯籠と並べて被災地に鎮魂の明かりをとす。この日は、公募で集めたメッセージの紙をフィルムで加工し、筒状に丸めた。

作業前には、北淡震災記念公園の総支配人で、旧北淡町で被災した米山正幸さん(55)が講演。家族は無事

「1・17のつどい」へ製作

阪神・淡路大震災から27年となる17日に催される追悼行事「1・17のつどい」に向け、行事に使う「紙灯籠」の準備作業が9日、新長田駅前の長田区文化センターであった。震災後に生まれた世代でつくる若者グループなどの17人が、命の尊さをかみしめつつ「絆や「命」、「刻む」といったメッセージ入りの紙灯籠を作った。 (藤井伸哉)

だったものの、避難所で生活し、消防団員として近隣住民の救助に当たった状況を克明に語った。

語り部活動を続けることを「生き残った者の務め」と話した米山さん。グループのメンバーには、「震災経験がなくても語り部はできる。被災者から聞き取った『心の受け継ぎ』をしてほしい」と期待した。

舞子高校環境防災科(垂水区)の3年で、同グループの三好彩香さん(18)は紙灯籠に「次世代へ繋ぐ」と書いた。「自分たちが役に立っているか不安だったが、自信になった。命を守るような活動を続けたい」と意気込んでいた。



伝える
— 震災27年

震災を語り継ぐメッセージが入った紙灯籠を作る「1・17希望の架け橋」のメンバー＝長田区文化センター (撮影・大森 武)



①今年の1月17日は、阪神・淡路大震災から丸何年になりますか。

②追悼行事「1・17のつどい」に使う「紙灯籠」を作る若者グループはどのような世代で作られていますか。グループ名は何といますか。

でつくる

グループ名「 」

③紙灯籠の筒のメッセージはどうやって集めましたか。また、自分なら何と書きますか。

で集められた

④「紙灯籠」を作る作業の前に講演した、北淡震災記念公園総支配人の米山正幸さんの話の言葉を書き入れましょう。

震災経験がなくても語り部はできる。被災者から聞き

取った『 』をしてほしい

⑤自分たちの地域の阪神・淡路大震災の追悼行事を調べてみましょう。